

地域住民の足を確保 ―乗り合いタクシーの試験運行実施

市では、町内会などの地域の方が主体となり、地域の足の確保に取り組み団体に対して、運行計画策定の支援や経費の一部助成など、事業の立ち上げを支援する「みんなでつくりよう地域交通スタート支援事業」を、今年4月から実施しています。丘陵地で道が狭い宮城野区燕沢地区では、本事業を活用して、地域交通の導入を検討。10月22日から乗り合いタクシー、通称「のりあい・つばめ」の試験運行を開始しました。乗車定員9人のジャンボタクシーは運賃が一律200円。11月16日までの約1カ月間、燕沢コミュニティ・センターを始発・終点とし、15カ所の停留所を



▲10月22日に出発式を開催。燕沢地区交通検討会の大西憲三会長(左から2番目)は「地域の力を結集し、成功させて次につなげたい」と期待を寄せました

市政トピックス

平成最後の区民まつりが開催されました

8月25日の泉区を皮切りに、今年も各地で区民まつりが開催され、大勢の人が楽しみました。10月21日に宮城野区・若林区・太白区、11月3日に青葉区で開催されたお祭りでは、30回目記念となる趣向を凝らした催しが繰り広げられました。宮城野区では、会場を華やかに彩る花の模擬せりが行われ、太白区では、あすと長町にある杜の広場公園周辺に会場を移し、地元出身の津軽三味線奏者や大道芸人が技を披露。各会場は、訪れた人々の歓声と笑顔であふれていました。



▼市民が参加した伊達政宗公の仮装パレード(青葉区民まつり)



▲子どもたちに大人気だったザリガニ釣り(若林区民ふるさとまつり)

名誉市民の西澤潤一氏がお亡くなりになりました



元東北大学総長で、仙台市総合計画審議会の会長も務めた、西澤潤一氏が、10月21日、92歳でお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

西澤氏は半導体工学・光通信などの分野の第一人者で、半導体材料の完全結晶化技術の開発や光通信に必要な三要素などを発案するなど、優れた研究成果を挙げられました。また、昭和59年に仙台市名誉市民の称号を受けられました。

追悼の会 日時 12月16日(日)午後2時～4時(一般の方の献花は午後3時) / 会場 11ウエスティンホテル仙台(青葉区一番町1-9-1) / 問実行委員会事務局(東北大学総務課) ☎217・4807

まち歩きしながらVR体験を楽しめるイベントも予定しています。



試用版VRイメージ

市政トピックス

優れた技能と長年の功績をたたえて ―技能功労者表彰

市では、長年にわたり優れた技能で市民の生活を支え、仙台のまちづくりの基礎を築いてきた技能職の方々を技能功労者として毎年表彰しています。

11月12日に仙台市技能功労者表彰式が行われ、26職種40人の方々が表彰されました。受賞者の方々は次のとおりです(順不同・敬称略)。

〔印刷製本職〕遠藤かづ江、熊谷祐治、菅井富男〔印章彫刻師〕小原淳一〔菓子製造職〕黒田昌稔〔ガラス職〕野中高広〔クリーニング師〕佐藤信三〔左官職〕安村武美〔写真師〕近江肇〔鍼灸マッサージ師〕遠藤雅裕〔造園職〕尾形拓、小野稔〔大工職〕蓮沼秀夫、小野寺國夫、安達

市政トピックス

さらなるにぎわいに向けて―定禅寺通活性化検討会が設立

光のページェントやジャズフェスなど、仙台を代表するイベントの舞台となり、市のシンボルロードでもある定禅寺通。その周辺を含めた地域の魅力を向上させ、さらなるにぎわいを目指すため、町内会や街づくり団体、地権者等で構成する「定禅寺通活性化検討会」が10月29日に設立されました。

今後、検討会では、市民の皆さんの意見も取り入れながら、定禅寺通エリアの将来像や活性化に関する取り組み、歩行者空間の活用などについて検討。定禅寺通エリアのまちづくりの基本構想案として取りまとめていく予定です。

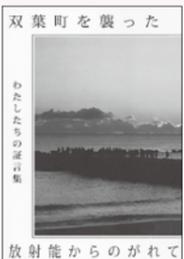
3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

一人一人の体験に耳をすます
book cafe 火星の庭 前野 久美子



東北関東大震災障害者のこゝろを救った本。東北関東大震災障害者のこゝろを救った本。東北関東大震災障害者のこゝろを救った本。



双葉町を襲った。放射能からのがれて。双葉町を襲った。放射能からのがれて。双葉町を襲った。放射能からのがれて。

「そのとき、被災障害者は：取り残された人々の3.11」

太白区長町にある自立生活センター「CILTたすけっと」のスタッフに教えていただいた障害者と家族、支援者の被災体験の証言集。ライフラインの途絶がすぐさま生死に直結すること、薬の調達、避難所の問題、個人情報保護による安否確認の難しさなど、想像を絶する体験がつづられていました。

一方で驚くことは、多くの被災障害者が他地域の障害者のための支援に尽力したこと。当たり前前に助け合う姿がここにありました。また、福島県南相馬市の自宅に5日間孤立した視覚障害者の小山田トヨさん(当時79歳)の、どんな状況でも尊厳を失わずに生きる姿に心を揺さぶられました。

「双葉町を襲った 放射能からのがれて」

福島県双葉町では大地震、大津波があった翌日に原子力発電所の爆発事故が起き、全町民7千人弱が国の避難命令によって突然故郷を追われました。1年に10回転居を強いられ、現在宮城県大河原町に住む目黒さんの避難体験を聞いた「みやぎ民話の会」の小野和子さんは、双葉町の人達の体験を記録してほしいと目黒さんに依頼します。録音機器を持たずにメモと記憶だけで聞き書きをしていく目黒さん。10代から80代までの44人の体験談には、同じ町に暮らし同じ体験をした町民同士だからこそ話せる苦悩、憤り、不安が語られています。所々に挟まれた双葉町の海、町並み、桜、お祭りの写真が美しいです。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585